

呉市にサ高住F C 1号店 サービス体制拡充し利用者開拓

さくら介護グループ

介護サービスのフランチャイズ(F C)を全国展開する、さくら介護グループ(中区大手町3-13-18、榎井伸二社長)は、呉市川尻町原山にサービス付き高齢者向け住宅のF C 1号店「さくらコンフォートくれ」を4月開設した。介護サービスF C加盟店の全国ネットワークを生かして「サ高住F C事業」を展開し、高齢者の住宅需要を掘り起こしていく構えだ。

同F C事業は、入居者募集から生活支援サービスまで運営・管理をトータルにサポート。新たな土地活用として建設、不動産関連会社ともタイアップする計画だ。1号店はエミ

リード(呉市)が運営。施設概要は介護居室30室、訪問介護のサービスも提供し、医療機関とも提携して24時間体制で緊急時にも対応する。入居費として家賃5万9000円、共益費・管理費月額2万5000円、食費同5万3000円で敷金が必要。入居者を募集中。2号店を尾道市に開設する予定。F C展開に先駆け、直営で三原市本郷南に同住宅(30介護居室)を運営している。

訪問介護主力のF C展開は現在、北海道〜九州に加盟店は約200社計282事業所に上る。介護保険のレセプト業務などを代行し、運営指導も行う。グループ全体の年間売上高は約40億円規模。社会問題になっている「介護難民」の増加や住み替え需要などを見込み、サ高住事業と訪問介護、通所介護の相乗効果を高めていく。約2年前から全国9エリア本部で、スキルアップなどを目的に加盟店事業者向けの「トップリーダーズスクール」や「マイスタースクールセミナー」を始め、人材教育にも力を入れている。海外は、数年内に介護保険制度の導入が予測されるタイで、首都バンコク市内を中心に家事代行サービスを12拠点で展開。ベトナムでも同事業を進めている。